

平成 22 年度 第 3 回 海岸委員会 西湘海岸見学記録

日時：平成 23 年 2 月 1 日（火）

14：15～17：00

場所：西湘海岸（神奈川県大磯町外）

1. 行程

「二宮駅」14:15 集合

- 1) 二宮漁港
- 2) 金波橋道路等災害復旧
- 3) 海岸保全の試験施工現場
- 4) 葛川河口岩盤
- 5) 大磯港

「大磯駅」17:00 解散

2. 見学地

＜二宮漁港＞

- ・漁港として突堤を整備（S 6 3～H 1 1）
- ・現在も地引き網等行われている。



二宮漁港（西側）



二宮漁港（東側）



突堤（二宮漁港）



京浜河川事務所の説明（中央は、元永所長）

＜金波橋道路等災害復旧＞

○平成 19 年 9 月台風 9 号で被災。

○主な被害

- ・擁壁崩壊、本線盛土流出等。
→鋼矢板と気泡混合軽量土等による埋戻し。
- ・橋脚及び基礎部損傷。
→既設 P3 橋脚を撤去し 2 基の橋脚新設。
→クラックにひび割れ注入補修。杭頭部にはモルタル巻立て補強等
- ・国交省とネクスコ東日本の管理区間にまたがって被災。

○4 車線確保しているが応急復旧のため、現在本復旧中。



銀波橋復旧状況



金波橋復旧状況

＜海岸保全の現地試験現場＞

○目的

「渚を守る技術開発として、砂浜の回復・保全を目的とした新技術の開発」として、新たな漂砂制御施設の開発と我が国の海岸保全に適用可能な袋詰め工法の技術開発を目的とする。

○連携機関

国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所、国土技術政策総合研究所海岸研究室、神奈川県及び東京大学

○試験施工

新たな漂砂制御施設の開発のため、大きな砂袋（試験体）の設置による海岸地形の変化や砂礫の動きの観測、養浜の効果について確認するとともに、袋詰め工法の耐久性について検証する。

○試験期間

平成 22 年 11 月～平成 23 年 4 月下旬まで。

○試験箇所

神奈川県中郡大磯町国府新宿地先の海岸

○試験体

設置・撤去が容易な袋詰め工を用い、施工性や耐久性の検証を行う。

幅 8 m、長さ 12 m、高さ 1.5 m

地表面からの突出高 (A)0.5m、(B)0.8m、(C)1.2mの3種類

○現地観測

地形測量、モニターカメラ観測、礫分布調査、底質調査、トレーサー調査等



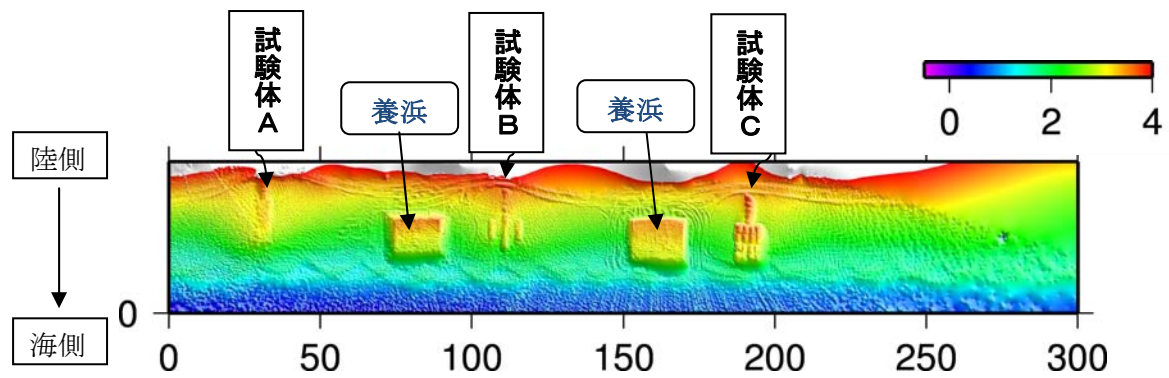
試験体 (A)



試験体 (B)



試験体 (C)



現地試験箇所のレーザースキャン測量結果(2月1日:見学当日)

[東京大学佐藤海岸研究室より]

<葛川河口岩盤>

- ・岩盤が露出している。高波浪時には海岸侵食を岩盤が防止している。
- ・現地試験のヒントの場



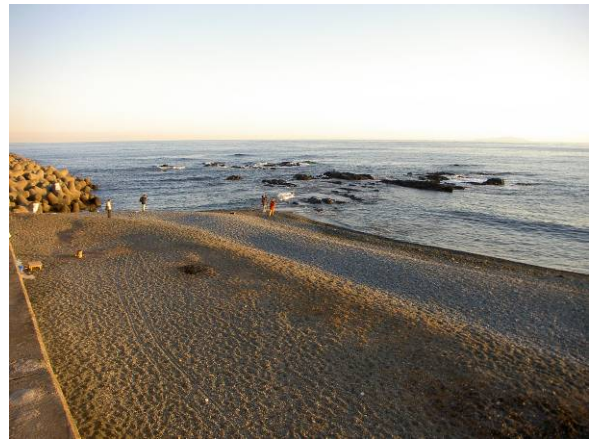
葛川河口部の岩盤

＜大磯港・大磯照ヶ崎海岸＞

- ・一時砂浜が侵食されたが、回復しつつある。
- ・海水浴発祥の地
- ・アオバト集団飛来地
- ・大磯港の東西で砂礫の粒径が異なる。

主な供給源は、大磯港の西側は酒匂川からで粒径大。

大磯港の東側は相模川からで粒径小。



大磯照ヶ崎海岸

以上